

厄介者 美容と健康に

抽出しやすいのも特徴だ。せっけんに一定量を配合する

クラゲから抽出したコラーゲンや糖たんぱく質「ムチン」などの有効成分を使った化粧品や医薬品の製品化を目指し、木平孝治社長(57)らが2009年に創業した。

きっかけは、クラゲによる漁業被害。エチゼンクラゲが大量発生し、漁業用の網を破るなどの被害が出ているのを見て、「なんとか活用できないか」と考えた。クラゲは廃棄物として処理さ

くらげ 海月研究所

(川崎市高津区)

れ、ほとんど利用されていないのが現状だ。だが体内には、美容に役立つ物質として人気のコラーゲンが多く含まれる。脂質などが少なく、純粋なコラーゲンを

と、肌の表面をバリアのようになり、保湿力を高める効果があるという。「自分で試したが、すべすべにならな」と木平社長は笑う。細胞の培養にも適し、再生



きらり 企業

クラゲ由来のコラーゲンなどを使った化粧品や医薬品の開発に取り組む木平社長

現在は社員3人の小所帯だが、近く2人を採用する予定で事業の拡大を図る。化粧品や美容関連商品を手始めに商品化を推進。早期に年間売り上げ3億円を実現し、将来は100億円台を目指す。

これまで、クラゲ由来の素材に対する世間の理解は

「年間でも処理するクラゲは約20ト。発電所の取水口に集まるクラゲだけで1万トにもなる。木平社長は「事業を早く拡大し、漁業被害の削減にも貢献したい」と意気込む。

医療の発達に伴った需要拡大も期待できるとしている。やはり体内にあるムチンは、細胞の保護や潤滑物質としての性質を持つ。ヒアルロン酸と組み合わせることで投与すると、ひざ痛を緩和する効果が期待できるなど、医薬品として応用できるといふ。電力会社の取水口に集まる大量のミズクラゲを中心に、原料の安定確保のめども付いた。「研究段階に比べて価格を20分の1に抑えることができ、既存製品にも対抗できそう」(木平社長)と話す。

(佐藤千尋)